



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月11日

上場会社名 株式会社カネカ 上場取引所 東・名
 コード番号 4118 URL <http://www.kaneka.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 菅原 公一
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経理部長 (氏名) 石原 忍 (TEL) 06-6226-5169
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月12日 配当支払開始予定日 平成25年12月5日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	257,171	10.0	11,361	53.4	11,790	73.8	7,068	100.0
25年3月期第2四半期	233,760	△0.5	7,407	15.0	6,784	17.5	3,534	24.4

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 12,840百万円(—%) 25年3月期第2四半期 △1,037百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	20.98	20.96
25年3月期第2四半期	10.49	10.48

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第2四半期	500,329	280,875	54.1
25年3月期	484,456	270,449	53.8

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 270,484百万円 25年3月期 260,594百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	8.00	—	8.00	16.00
26年3月期	—	8.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	8.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	530,000	11.2	30,000	89.8	28,000	71.3	15,000	60.9	44.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 有

③ 会計上の見積りの変更 : 有

④ 修正再表示 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

26年3月期2Q	350,000,000株	25年3月期	350,000,000株	
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	12,958,466株	25年3月期	13,049,280株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年3月期2Q	336,979,779株	25年3月期2Q	336,952,876株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しておりません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- 当社は、平成25年11月11日に、機関投資家及び証券アナリスト向けの決算説明会を電話にて開催する予定です。

【添付資料】

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	P. 4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	P. 4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	P. 4
3. 四半期連結財務諸表	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 10
(継続企業の前提に関する注記)	P. 10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 10
(セグメント情報等)	P. 10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループの当第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日～平成25年9月30日)の業績は、売上高は257,171百万円(前年同四半期連結累計期間(以下、前年同四半期)比10.0%増)と前年同四半期と比較して増収となり、営業利益は11,361百万円(前年同四半期比53.4%増)、経常利益は11,790百万円(前年同四半期比73.8%増)、四半期純利益は7,068百万円(前年同四半期比100.0%増)と増益となりました。

セグメント別では、前年同四半期と比較して、すべてのセグメントで増収となりました。営業利益は、化成品事業、発泡樹脂製品事業、ライフサイエンス事業は減益となりましたが、機能性樹脂事業、食品事業、合成繊維、その他事業は増益となり、エレクトロニクス事業は黒字化しました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①化成品事業

塩化ビニール樹脂は、国内向け販売が堅調に推移しましたが、原料価格上昇の影響を受けました。塩ビ系特殊樹脂は、海外市場で販売数量が増加しました。か性ソーダは、国内需要が低調に推移し、販売数量が減少しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は51,565百万円と前年同四半期と比べ4,643百万円(9.9%増)の増収となりましたが、営業利益は1,184百万円と前年同四半期と比べ983百万円(45.4%減)の減益となりました。

②機能性樹脂事業

モディファイヤーは、製品差別化力の向上、コストダウンなどの収益体質強化に注力し、国内市場・海外市場ともに販売数量が増加しました。変成シリコーンポリマーは、ユニークな品質特性への評価が高く、国内市場・海外市場ともに販売数量が増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は41,882百万円と前年同四半期と比べ6,428百万円(18.1%増)の増収となり、営業利益は4,368百万円と前年同四半期と比べ1,216百万円(38.6%増)の増益となりました。

③発泡樹脂製品事業

発泡スチレン樹脂・成型品、押出發泡ポリスチレンボードは、販売数量が増加しましたが、原料価格高騰の影響を受けました。ビーズ法発泡ポリオレフィン、海外市場を中心に販売数量が増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は32,128百万円と前年同四半期と比べ3,082百万円(10.6%増)の増収となりましたが、営業利益は1,865百万円と前年同四半期と比べ292百万円(13.5%減)の減益となりました。

④食品事業

食品は、食の多様化も進み、消費者の低価格志向が一層強まる中で、ニーズを先取りした新製品の拡販やコストダウンに注力しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は65,080百万円と前年同四半期と比べ1,817百万円(2.9%増)の増収となり、営業利益は2,536百万円と前年同四半期と比べ327百万円(14.8%増)の増益となりました。

⑤ライフサイエンス事業

医療機器は、期初において血液浄化システムの販売が低調となりましたが、国内外での拡販やコストダウンに注力し、足元では堅調な販売となっています。医薬バルク・中間体は、販売数量が低調となりましたが、機能性食品素材は、還元型コエンザイムQ10のサプリメントとしての認知が進み、販売数量が前年同四半期を上回りました。

以上の結果、当セグメントの売上高は22,254百万円と前年同四半期と比べ150百万円(0.7%増)の増収となりましたが、営業利益は3,059百万円と前年同四半期と比べ888百万円(22.5%減)の減益となりました。

⑥エレクトロニクス事業

超耐熱性ポリイミドフィルムは、需要が拡大しているエレクトロニクス製品市場で新製品のラインアップや新規案件の採用などにより販売数量が前年同四半期を上回りました。また、需要が大幅に増大しているスマートフォン、タブレットPCのタッチパネル向けに、本年度新たに、透明導電性フィルム(ITOフィルム)を事業化しました。太陽電池は、国内住宅市場における美観と性能を併せ持つ極めてユニークな建材製品としての市場認知が進み、販売が拡大するとともに徹底したコストダウンに注力しました。太陽電池関連部材は販売数量が低調となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は24,483百万円と前年同四半期と比べ4,293百万円(21.3%増)の増収となり、営業利益は889百万円と黒字化しました。

⑦合成繊維、その他事業

合成繊維は、高付加価値品の拡販を進めるとともに、コストダウンなどの収益改善策に注力しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は19,776百万円と前年同四半期と比べ2,995百万円(17.9%増)の増収となり、営業利益は4,357百万円と前年同四半期と比べ1,792百万円(69.8%増)の増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ15,872百万円増の500,329百万円、有利子負債残高は、1,090百万円増の87,522百万円となりました。また、純資産は、利益剰余金、その他有価証券評価差額金や為替換算調整勘定の増加等により10,425百万円増の280,875百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間の営業活動による資金の増加は、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により21,929百万円となりました。投資活動による資金の支出は、有形固定資産の取得による支出等により15,872百万円、財務活動による資金の支出は、配当金の支払額等により3,134百万円となりました。この結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は、35,037百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間の世界経済は、米国では緩やかな回復基調が続いているものの、欧州経済低迷の長期化、中国・インドなどアジア諸国の成長ペース鈍化など、先行きの不確実性が引き続き大きい状況となっています。

わが国経済は、円高の修正、政府の経済政策などを背景に、景気は緩やかに回復しつつあるものの、本格的な景気の回復に向けては、海外景気の下振れリスクなど不透明感が残る状況であります。

このような厳しい経済環境の中、当社グループは、引き続き重点戦略分野への経営資源の投入、成長のドライビングフォースとなる新規事業の創出やグローバル展開を一層強化し、事業構造の変革に注力するとともに、既存事業においては、新製品の上市など販売数量増大のための施策及び競争力向上のための製造コストや経費の削減等の収益力回復策に徹底して取り組んでまいります。

なお、通期の連結業績予想につきましては、変更しておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第2四半期連結累計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社、国内連結子会社及び一部の海外連結子会社は、一部を除く有形固定資産の減価償却方法についてこれまで定率法を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更いたしました。

当社は、2009年策定の長期ビジョン「KANEKA UNITED 宣言」(2020年度目標)に基づくグローバル展開を強力に推進しておりますが、本年度以降、海外における生産・販売拠点の新設、生産能力の増強等、海外投資がいよいよ本格化します。このような資源配分の変化を契機に、当社グループの減価償却方法について再検討した結果、定額法に統一することが適切であると判断するに至りました。当社グループの有形固定資産は、総じて長期安定的な使用が可能であり、経済的実態の点からより定額法が適合していること、また定額法への統一が当社グループ会社間のコスト比較、ひいては資源配分の意思決定に寄与すると同時に、グローバル展開している多国籍企業との業績比較も容易になる等、当社のグローバル化の推進に資すると考えられるためです。

この変更により、従来の方法によった場合に比べ、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ3,620百万円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32,038	35,265
受取手形及び売掛金	116,705	114,416
有価証券	110	110
商品及び製品	47,409	48,280
仕掛品	8,451	9,091
原材料及び貯蔵品	24,417	24,763
その他	13,847	11,792
貸倒引当金	△110	△92
流動資産合計	242,869	243,627
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	53,484	54,848
機械装置及び運搬具（純額）	64,185	67,664
その他（純額）	51,877	56,966
有形固定資産合計	169,547	179,479
無形固定資産		
のれん	4,014	5,347
その他	4,589	5,694
無形固定資産合計	8,603	11,041
投資その他の資産		
投資有価証券	46,862	50,756
その他	16,799	15,646
貸倒引当金	△226	△222
投資その他の資産合計	63,435	66,180
固定資産合計	241,586	256,701
資産合計	484,456	500,329

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	64,238	62,121
短期借入金	48,226	46,553
未払法人税等	1,622	2,675
引当金	115	10
その他	34,924	46,163
流動負債合計	149,128	157,524
固定負債		
社債	15,000	10,000
長期借入金	25,442	28,232
退職給付引当金	19,497	19,926
引当金	322	226
負ののれん	208	104
その他	4,407	3,439
固定負債合計	64,878	61,929
負債合計	214,006	219,453
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,046	33,046
資本剰余金	34,836	34,836
利益剰余金	200,986	205,532
自己株式	△10,547	△10,471
株主資本合計	258,322	262,944
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,261	10,819
為替換算調整勘定	△5,989	△3,279
その他の包括利益累計額合計	2,271	7,540
新株予約権	159	139
少数株主持分	9,695	10,251
純資産合計	270,449	280,875
負債純資産合計	484,456	500,329

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	233,760	257,171
売上原価	176,792	192,954
売上総利益	56,967	64,217
販売費及び一般管理費	49,560	52,856
営業利益	7,407	11,361
営業外収益		
受取配当金	624	719
為替差益	256	817
持分法による投資利益	—	183
その他	457	749
営業外収益合計	1,338	2,470
営業外費用		
支払利息	435	477
固定資産除却損	509	823
持分法による投資損失	41	—
その他	974	740
営業外費用合計	1,961	2,041
経常利益	6,784	11,790
特別利益		
投資有価証券売却益	277	—
特別利益合計	277	—
特別損失		
固定資産売却損	—	293
支払補償費	796	—
訴訟関連費用	345	562
退職給付費用	—	363
特別損失合計	1,141	1,218
税金等調整前四半期純利益	5,921	10,571
法人税、住民税及び事業税	1,425	2,667
法人税等調整額	942	510
法人税等合計	2,367	3,177
少数株主損益調整前四半期純利益	3,553	7,393
少数株主利益	18	325
四半期純利益	3,534	7,068

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,553	7,393
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,272	2,575
為替換算調整勘定	△2,313	2,860
持分法適用会社に対する持分相当額	△4	10
その他の包括利益合計	△4,590	5,447
四半期包括利益	△1,037	12,840
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△900	12,337
少数株主に係る四半期包括利益	△137	503

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	5,921	10,571
減価償却費	13,402	9,761
退職給付引当金の増減額(△は減少)	231	332
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△73	△24
受取利息及び受取配当金	△666	△746
支払利息	435	477
持分法による投資損益(△は益)	41	△183
固定資産処分損益(△は益)	239	860
売上債権の増減額(△は増加)	5,316	3,431
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,621	△1,049
仕入債務の増減額(△は減少)	△3,785	△2,583
その他	△2,750	1,101
小計	15,690	21,949
利息及び配当金の受取額	684	786
利息の支払額	△435	△466
法人税等の支払額	△2,063	△339
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,875	21,929
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△15,840	△13,309
有形固定資産の売却による収入	—	84
無形固定資産の取得による支出	△1,098	△1,490
投資有価証券の取得による支出	△74	△32
投資有価証券の売却による収入	338	140
関係会社株式の取得による支出	△7	△1,003
貸付けによる支出	△1,056	△558
貸付金の回収による収入	912	102
その他	△210	193
投資活動によるキャッシュ・フロー	△17,036	△15,872
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,516	△3,552
長期借入れによる収入	6,826	4,969
長期借入金の返済による支出	△6,017	△1,813
リース債務の返済による支出	△211	△173
少数株主からの払込みによる収入	—	224
配当金の支払額	△2,695	△2,695
少数株主への配当金の支払額	△56	△84
自己株式の取得による支出	△2	△8
自己株式の売却による収入	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△641	△3,134
現金及び現金同等物に係る換算差額	△214	364
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△4,016	3,285
現金及び現金同等物の期首残高	27,157	31,747
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	182	3
現金及び現金同等物の四半期末残高	23,323	35,037

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

セグメント情報

I 前第2四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント								調整額	合計
	化成品	機能性樹脂	発泡樹脂製品	食品	ライフサイエンス	エレクトロニクス	合成繊維、その他	計		
売上高										
外部顧客への売上高	46,921	35,454	29,046	63,263	22,104	20,189	16,780	233,760	—	233,760
セグメント間の内部売上高又は振替高	658	290	66	0	5	376	792	2,188	△2,188	—
計	47,580	35,744	29,113	63,263	22,109	20,565	17,572	235,949	△2,188	233,760
セグメント利益又は損失(△)	2,167	3,151	2,157	2,208	3,948	△1,689	2,565	14,510	△7,103	7,407

（注）セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	14,510
セグメント間取引消去	△26
全社費用(注)	△7,054
その他の調整額	△21
四半期連結損益計算書の営業利益	7,407

（注）全社費用は主に特定の報告セグメントに帰属しない基礎的研究開発費であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント								調整額	合計
	化成品	機能性樹脂	発泡樹脂製品	食品	ライフサイエンス	エレクトロニクス	合成繊維、その他	計		
売上高										
外部顧客への売上高	51,565	41,882	32,128	65,080	22,254	24,483	19,776	257,171	—	257,171
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,112	352	102	0	1	596	960	3,125	△3,125	—
計	52,677	42,234	32,231	65,080	22,256	25,079	20,737	260,297	△3,125	257,171
セグメント利益	1,184	4,368	1,865	2,536	3,059	889	4,357	18,261	△6,900	11,361

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	18,261
セグメント間取引消去	12
全社費用(注)	△6,925
その他の調整額	11
四半期連結損益計算書の営業利益	11,361

(注) 全社費用は主に特定の報告セグメントに帰属しない基礎的研究開発費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)に記載の通り、当社、国内連結子会社及び一部の海外連結子会社は、一部を除く有形固定資産の減価償却方法についてこれまで定率法を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更いたしました。

これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間のセグメント利益が、「化成品事業」で860百万円、「機能性樹脂事業」で368百万円、「発泡樹脂製品事業」で276百万円、「食品事業」で405百万円、「ライフサイエンス事業」で240百万円、「エレクトロニクス事業」で876百万円、「合成繊維、その他事業」で278百万円増加しております。また、報告セグメントに帰属しないセグメント利益の調整額の全社費用が315百万円減少しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「ライフサイエンス」セグメントにおいて、(株)リバーセイコーの株式を平成25年7月に取得し、連結の範囲に含めたため、1,208百万円のものれんが発生しております。